

(様式2)

社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名 (ふりがな)	松尾太加志 (まつお たかし)	所属	北九州市立大学文学部 教授
研究集会等名称	社団法人日本心理学会「医療安全の心理学研究会」 ワークショップ		
成果概要	<p><集会の目的と内容></p> <p>社団法人日本心理学会「医療安全の心理学研究会」では、毎年、日本心理学会において医療安全を心理学の視点から考えるワークショップ(WS)をさまざまなテーマで開催してきた。</p> <p>本年は、日本心理学会第75回大会において「医療事故防止に心理学はどのように貢献できるか 12～第3者としての心理学研究者の役割」として開催した(9月17日15-17時)。</p> <p>このWSでは、当研究会の松尾が心理学研究者の立場から、東邦大学看護学部中原り子氏が心理学研究者の協力を得て医療安全に関する研究を実践している医療職の立場から、心理学研究者の役割について話題提供した。</p> <p>指定討論者として、日々、医療機関で診察・治療にあたる医師の仲捨氏、患者・家族として医療に関わってきた鹿中氏を招き、医療現場の安全に関わる課題等について問題提起いただいた。</p> <p>これらを受けて、フロアーより、医師、コメディカル、情報工学、の専門家などによる発言があった。</p> <p>議論を通して医療機関の待ち時間や患者からの質問への対応などの課題は、医療機関や医療者の状況が患者から見てブラックボックスであり、これを患者から理解可能なものにする方策に心理学の研究成果の利用可能性があることが示唆された。また次のWSのテーマとしてリスクコミュニケーションの問題が見出された。</p> <p>当研究会員以外の参加が可能な公開での実施である。</p> <p><期待される成果等></p> <p>ワークショップを定期的、継続的に開催することにより、医療安全分野における心理学的研究の重要性について、理解を広め、関心を持つ人たちを増やすことにつながると考えられる。</p> <p><参加人数(会員・非会員・非会員の認定心理士の各人数)></p> <p>日本心理学会会員 20人、非会員 10人</p>		